

ふるさと夢とやま

食と農とむらを考える情報誌 No.29



●ふるさとウォッチング
魚津市小菅沼地区
氷見市胡桃地区

▼トピックス
子ども農山漁村交流プロジェクト

●たずねてみよう、棚田のあるまち
富山市・中新川郡いちおし編

▼トピックス
GAPの取組みが始まります

▼トピックス
とやま帰農塾 2012 「循環型むら体験道場」
参加者募集

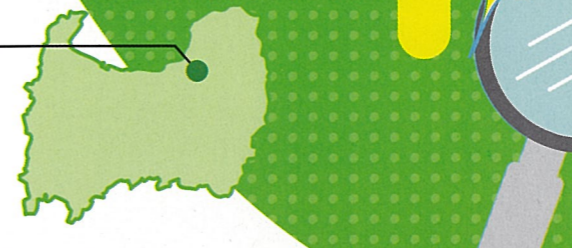
▼トピックス
第1回「とやまの農山村写真展」受賞作品

★カモ親子の農村日記
鷹栖口用水（砺波市・小矢部市）



ふるさと オッチング 1

魚津市
こすがぬま
小菅沼地区



上：平成 23 年の稲作アート 下：ひまわり大作戦に参加した地元住民とヤギたち

里山の保全にヤギが一役 高齢者とともに地域の活性化

小菅沼集落は、魚津市街地と富山湾、能登半島を見下ろす里山にあります。室町時代から、松倉城を中心に北陸山街道の要所として栄えました。しかし、少子高齢化や離村などによって住民が減少し、現在は8世帯だけとなっています。農・林業の担い手の激減や鳥獣害の発生など、典型的な中山間地域の問題を抱えた集落が、高齢者と共に活性化をめざす取り組みを、「ヤギの杜」の活動を中心に紹介します。

「小菅沼・ヤギの杜」の取り組み

小菅沼・ヤギの杜」結成

平成20年、集落外の非農家を含めた12名の有志が、「小菅沼・ヤギの杜」を結成しました。里山の保全をテーマに、高齢者でも安心して生活できる傾斜地の集落づくりを進めようと、集落の理解を得ながら森林・竹林整備、炭焼き、耕作放棄地の再生や、小学生と連携した稲作アートの製作などを行っています。

活動のパートナーとして、集落員を上回る18頭のヤギが活躍しています。ヤギたちの主な仕事は畦畔の除草や野生動物の侵入を抑制することです。



ヤギの係留方式による野生動物対策

耕作放棄地を再生

平成20年10月、「魚津市中山間地域連絡協議会」の協力により、耕作が放棄され雑草に覆われた棚田の除草を行い、その後で雑草の生長を抑制する目的も兼ねて、地力増進作物であるヘアリーベッチの種をまきました。ヘアリーベッチはまた、生長後に田畑にすき込むと土をやわらかくするとともに、肥料(緑肥)としての効果も発揮する作物です。こうした作業によ

て土壌が改良され、作物の栽培が可能になったことから、22年には雑畑(焼畑)による赤蕪栽培や野生動物による被害を受けにくいサトイモなどの栽培に着手しました。23年には、漬物となる野沢菜・高菜・キャベツなどの栽培を始め、加工品の生産の準備を進めています。



再生土壌で栽培した漬菜類

竹林を利用した商品開発

昨今、竹林を含む森林管理が困難になっていきます。「小菅沼・ヤギの杜」では、平成21年より冬の除雪の障害となる竹などを集材し、炭焼きを行っています。竹の枝葉や枯れた稈は、畑の土壌改良や雑草抑制に用いるチップにして、炭焼きをする際に出る竹酢液とともに販売しています。竹林整備によってバッファゾーン



竹チップの製造

イベント参加で存在感発揮

小菅沼集落の活性化をアピールするため、平成23年度より、毎年5月に魚津市で開催される「のろし祭り」への出店を始めました。当集落が出店する「すがま茶屋」では、集落の人びとの協力により、農林生産物・加工品の企画・販売を行っています。現在、平成24年10月に開催される予定の第19回全国山城サミット魚津大会への参加準備を進めています。

他集落との交流で賑わいを取り戻す

●集落を彩るひまわり

小菅沼では、「中山間地域等直接支払交付金」を活用し、集落の活性化に努めています。その一つに、魚津市の中山間地域の23集落で結成した「魚津市中山間地域連絡協議会」の活動である「ひまわり大作戦」があります。今年度で3年目を迎えるこの活動では、耕作放棄地発生防止を目的に、当集落の農用地を活用して景観作物のひまわりを植付けています。このイベントには集落内外からもたくさんの方々が集まります。普段は接点が少ない遠くの集落の人々とも交流することができ、小菅沼集落に賑わいをもたらしています。



ひまわり大作戦の看板

もちろんヤギも助っ人として参加するので、地元の子どもたちにも人気のイベントとなっています。

●ワタシたちに「メエメエ」してね

小菅沼では、毎年仔ヤギも生まれ、地元小学生に名前をつけてもらう「メエメエ式(命名式)」を行っています。



ヤギとふれあう魚津市内の児童たち

ます。名前をつけてもらった仔ヤギたちは、冬の間集落の元気なおばあちゃんたちに面倒を見てもらいます。平成23年度には木材でヤギのシンボルマークをチェーンソーアートにより製作して、集落の入り口であるポケットパークに設置しました。ヤギは作業の面でも活性化の面でも切っても切れない重要なパートナーになっています。



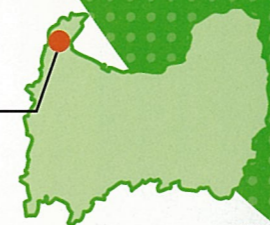
小菅沼のおばあちゃんとヤギたち



ふるさと オッチング 2



氷見市
くるみ
胡桃地区



胡桃地区の棚田風景

心癒される胡桃の地で農業体験

胡桃地区は、氷見市街地から北西に約15km離れた標高200mの中
山間地に位置しています。昭和39年に大規模な地滑りが発生し、約
150haの広大な山林と耕地が崩壊しましたが、現在都市農村交流活動などに積極
的に取り組んでいます。

棚田保全の ための取り組み

付加価値の高い
農作物生産

昭和39年の地滑り後、ほとんどの
住民は市街地周辺や石川県へ移住
し、3戸のみが残りました。壊滅し
た棚田は、国の災害復旧工事など
により基盤整備され、再び農業を行
えるようになったことから、集落外へ
移住した農家は、現在、ほ場のある
胡桃集落へ通うというめずらしい
「通勤農業」を行っています。

平成22年度に、胡桃地区の棚田を
守り集落の活性化を図るために、関
係者が一致協力して、「胡桃棚田保
全活動推進委員会（谷内田勇代表
）（以下、委員会）」を設立しました。



参加者による稲刈り風景

この委員会は、「農事組合法人くる
み宮農組合（以下、くるみ宮農組合）」
を中心として、氷見市、JA氷見市
（川上修組合長）の職員で構成され
ています。委員会の中心である、く
るみ宮農組合（土平栄一組合長）で
は、水稻を中心に、平成19年度から
はハトムギの栽培、平成21年度から
はミニトマト栽培に取り組んでお
り、経営の複合化を進めています。
特に水稻では、特別栽培米、[※]はさか
け米および低タンパク米「春陽」な
どの付加価値の高いコメを生産して
います。

委員会の主な活動として、棚田で

の農業ボランティア体験活動を実施
しています。

[※]はさかけ 昔ながらの乾燥方法で、刈り取った稲
などを木材や竹を組んで作った稲架
（はこ）に掛けて、天日で干すこと

農業体験活動の実施

胡桃地区では、平成16年度から低
タンパク米「春陽」の作付をしてい
ますが、保全活動事業の一環として、
氷見高校（旧・有機高校）農業科学
科の生徒、金沢医科大学氷見市民病
院の職員が参加し、委員会の指導の
もと、毎年5月に田植え体験、9月
には稲刈り、はさかけ体験を実施し
ています。現在ではなかなか体験で
きない機械に頼らない手作業である
ため、時間もかかりますが、一つひ
とつが貴重な体験です。また、眼下



氷見高校生による田植え風景

には、美しい棚田の風景や、弧を描
く富山湾、海越しの立山連峰がそび
え、心を癒す空間がここにあります。

「くるみファン」を 増やそう!!

委員会では、この農業体験を通
じて、参加者に食の大切さや農業
に携わる人々の苦労を肌で感じて
もらい、農業への関心を高めると
ともに、棚田保全への興味を持つ
てもらおうと考えています。また、
「春陽」の胡桃地区としての特産化
も図っています。

胡桃集落では、このようなボラ
ンティア体験活動を通じて、市内
外の住民との交流を実施すること
で、当地区での農業生産活動を知っ
てもらい、今後、環境が整えば広
大な土地を利用した家庭菜園など
にも取り組み「くるみのファン」
を増やしたいと考えています。

低タンパク米で食事療法に貢献

「春陽」は通常の米より人体へのタン
パク質の吸収が少なく、糖尿病腎症など
腎機能低下で、タンパク質摂取が制限さ
れる患者の食事療法に適していると考え
られています。このことから、金沢医科大学
氷見市民病院糖尿病委員会の医師、看護
師や糖尿病患者でつくる「ありそ会」が、
「春陽」作付の農業ボランティア体験活
動に参加するようになりました。

氷見の新たな特産品をめざす

●氷見にしかないトマト



ミニトマト「アイコ」

胡桃集
落では、
近年の米
価下落に
よる農業
収入減の
問題に対
処し、経
営複合化
をめざす
という目的で、ミニトマトの栽培に
取り組んでいます。栽培品種は、「ア
イコ」と「イエローアイコ」の2品
種で、ビニールハウス内において養
液土耕栽培（トマト苗木・1,00
0本）をしています。この栽培法で
は、灌水、施肥が自動でできるため

省力的になっています。また、従来
は手作業で行っていた受粉をマル
ハナバチにさせることで、さらなる
省力化を図っています。トマト収穫
時には、近傍の上庄保育園の園児に
よる農業体験も実施しています。

●ブリや氷見牛にあう酒

胡桃地区で作付された「春陽」を
利用し、JA氷見市およびJAアグ
リひみが食育活動の一環として、氷
見高校農業科学科の生徒を対象に、
市内北大町の高澤酒造（高澤利朗代
表）で、純米吟醸酒「八代仙（はっ
たいせん）」の仕込み作業体験を実
施しています。「八代仙」は白ワイ
ンのようなスッキリとした味わい
で、ブリや氷見牛などの氷見の食材
にあう純米吟醸酒として人気があ
ります。



園児によるトマトの収穫体験



高校生による仕込み体験

モデルコース
in氷見



	1日目	2日目	3日目	4日目
午前	現地を出発	・定置網漁見学 ・釣り体験	・地引き網体験 ・細工かまぼこ絵付け体験	・男子/あいやまガーデンで自然体験 ・女子/ブルーベリージャム作り
午後	・入村式/オリエンテーション ・民宿との交流会 ・宿周辺の散策	・昼食/氷見カレー作り ・虹が島で磯観察 ・海浜植物園での体験教室または氷見の里山散策	・昼食/魚さばきと大漁鍋 ・干物作り体験 ・まちなかウォークラリー ・宿でお別れ会	・昼食/氷見の名産品を使った料理教室 ・学習のとりまとめ ・閉村式



▲ ヒスイ拾い(あさひ) ▲ 清水巡り(くろべ) ▲ 田舎料理体験(南砺市利賀村)

子どもたちの豊かな人間性を育むために
農山漁村交流プロジェクト

期待される教育的な効果

このプロジェクトの様々な教育的効果が全国各地の実施校や協議会から報告されています。

- ・ 農林漁業体験を通して食の大切さを学ぶ
- ・ 体験を通じて得た感動や教訓を日常に活かす
- ・ 集団生活の下で人間関係を育む

などが主なものです。

特に、農林漁家での宿泊体験は、子どもだけの集団生活とは異なり、各農林漁家の方々が「お父さん」や「お母さん」になることによって、先生や保護者以外の大人との人間関係作りを行います。普段の生活とは異なる環境や人間関係の中に身を置き、様々な実体験

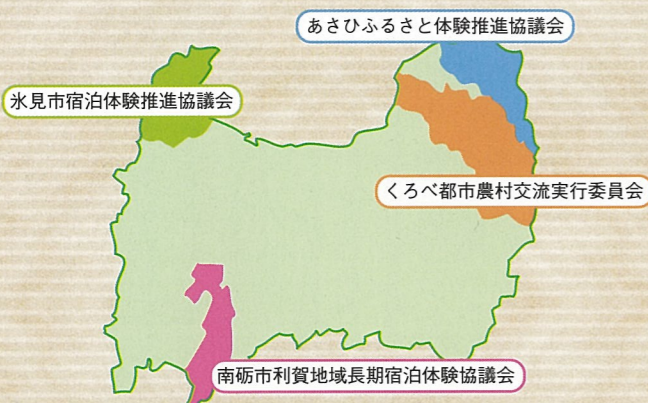
を行うことにより、子どもたちの新たな一面を引き出し、成長を促す効果があります。

受け入れ協議会

学校が実施する宿泊体験学習の受け入れを行うため、県内でも、4つの協議会が整備されています。これらの協議会では、学校と綿密な事前打ち合わせを行い、学校の授業に応じた体験プログラムを提供したり、定期的に安全・衛生管理等の講習を受けるなど、より良い体験となるように取り組んでいます。

また、プログラムは、それぞれの地域に特色のある自然体験や、生活体験があり、子ども達の豊かな感性を育むことができます。

県内で受け入れを行っているところ



- ・ あさひふるさと体験推進協議会
(窓口 あさひふるさと体験推進協議会事務局 0765-83-3700)
- ・ くろべ都市農村交流実行委員会
(窓口 黒部市産業経済部農業水産課 0765-54-2111)
- ・ 氷見市宿泊体験推進協議会
(窓口 氷見市観光協会 0766-74-5250)
- ・ 南砺市利賀地域長期宿泊体験協議会
(窓口 南砺市観光協会利賀支部 0763-68-2527)

それぞれの協議会では、稲刈体験や木工体験、地引き網体験や民宿のお母さん体験など、日頃し得ない体験を経験することができます。

このプロジェクト、または県内の協議会の活動内容について興味のある方は、ホームページにアクセスしてみてください(各協議会へのリンクもあります)。

とやまのグリーン・ツーリズム 検索
<http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/toyamagt/> まで



地域に伝わる民話を教えてもらう(南砺市利賀村)



「切り身」ではない魚に子どもたちはおっかなびっくり(あさひ)

農山漁村の生活体験が子どもたちの感性を磨く

小学校の高学年になると、集団活動や自立心の向上のため「宿泊学習」が行われています。これらの中で、農林漁家が経営する民宿などに宿泊し、農山漁村の生活を体験することで、豊かな人間性を育むことを目指したのが「子ども農山漁村交流プロジェクト」です。このプロジェクトは、平成20年度に、総務省・農林水産省・文部科学省の3省連携により取り組みが始まりました。

棚田MAP

棚田とは 中山間地域の中でも急傾斜(水平距離20mに対し高低差が1m以上)の農地を指します。県内には12市町約430集落に分布しており、自然環境をめぐむとともに、その美しい風景は人々の心に安らぎをあたえてくれます。

たずねてみよう 棚田のあるまち

富山市・中新川郡 いちおし編

A 鎌倉 かまくら (富山市山田)

「鎌倉八幡宮の大桜」も見所

県道山田・湯谷線から牛岳温泉スキー場へ向かう途中に棚田が広がる。春には富山市指定文化財「鎌倉八幡宮の大桜」も見ることができる。「マコモタケ」の特産化に取り組んでいる。



B 宿坊 すくぼう (富山市山田)

宿坊大橋からの眺めは絶景


市道山田・八尾線「宿坊大橋」から眼下を見渡すと棚田を一望できる。「美しい日本の村コンテスト」の農林水産大臣賞を受賞しており、写真愛好家の絶好の撮影スポットとなっている。



C 河西 かわにし (富山市八尾)

河西棚田オーナー実施中


県道湯・八尾線を山田に向かって行くと右側に棚田が広がる。河西地区は、竹ノ内・尾久・宮ヶ島・窪・天池の集落からなる。田植、稲刈、野菜の収穫体験などができる、棚田オーナー制度に取り組んでいる。



D 三乗 みのり (富山市八尾)

「日本の棚田百選」に認定


国道472号線を南下し、八尾町三和・乗嶺地内に広がる棚田で、立山連邦を一望できる。「みのり棚田の学校」では、田植え、稲刈り、さつまいも掘りといった農作業体験や、ホテル観察会を行っている。



E 西種 にしたね (中新川郡上市町)

「種の里」棚田オーナー実施中


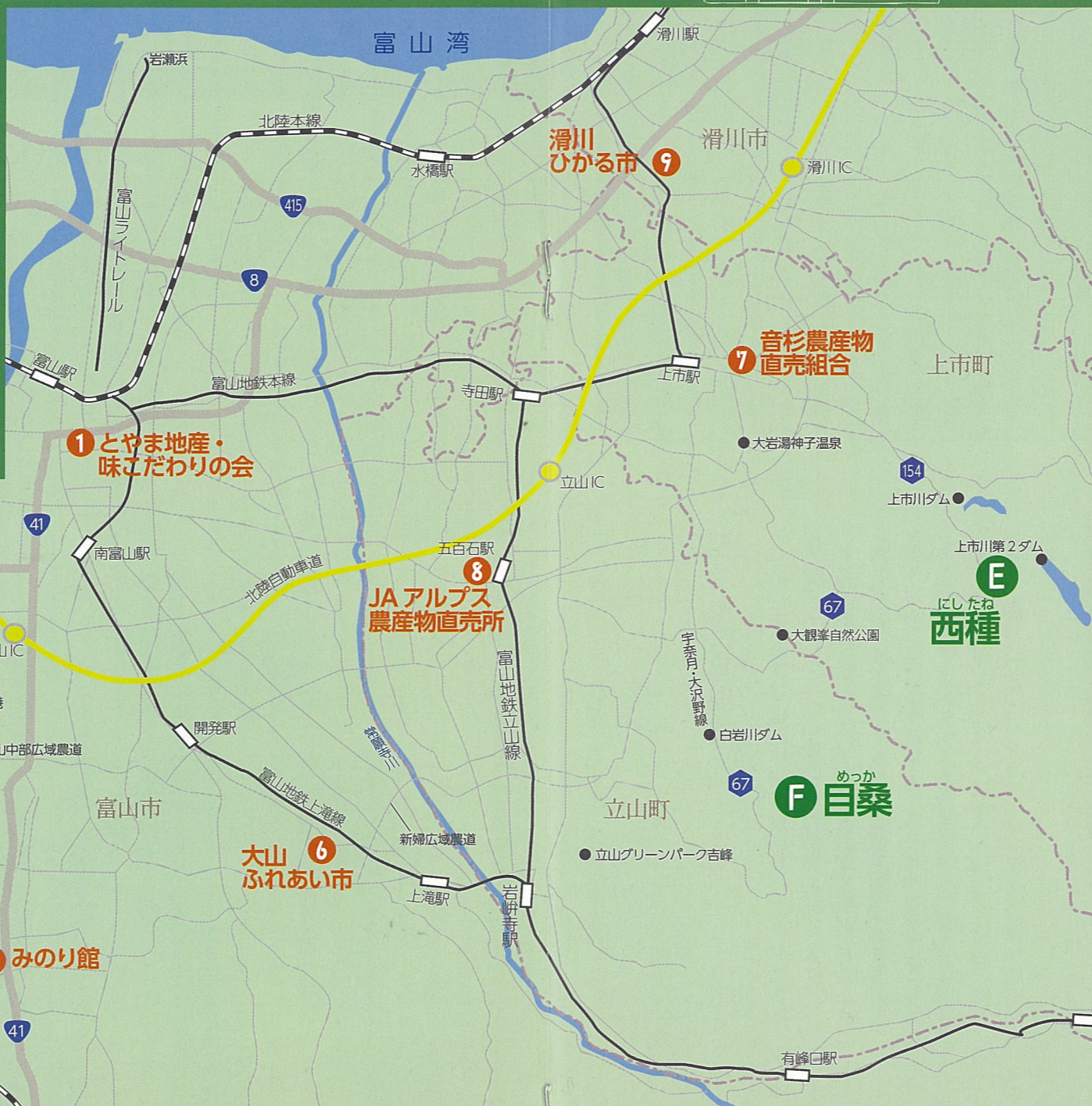
上市町役場前の道路を東方向に進む。県道154号線の追分交差点を直進すると西種地区に入る。日吉神社付近に「種の里」棚田オーナー田がある。また、ハゲ山の遊歩道登り口がある。



F 目桑 めっか (中新川郡立山町)

「白炭の里」で炭焼き体験あり

主要地方道宇奈月・大沢野線を白岩川ダム方向へ進み、2kmほど進んだところに棚田が広がる。付近には「白炭の里」があり、炭焼き体験ができる。

おすすめ農産物直売所 新鮮!

棚田を訪ねた後は、地元産朝採れ野菜をはじめ、新鮮な食材が数多くそろった各地の農産物直売所に立ち寄ってみよう。

⑤ 山田の案山子

野菜やコロッケ、漬物、ジャムなどを販売。手打ちソバを食べられる飲食コーナーも店内に設置している。各種イベントを随時開催。

☎ 9:00~15:00(土・日曜・祝日)



① とやま地産・味こだわりの会

野菜や野菜を使った総菜、おこわ、モチが人気。特産の梨やリンゴ、加工品も豊富で、お休み処もあり憩いの場を提供している。

●中央通り街なかサロン「樹の子」1階
☎ 10:00~15:00(水曜休)



⑥ 大山ふれあい市

多種類の野菜が並び、夏には特産のモウガ、モロヘイヤが人気。特産の「みょうが寿司」やモチ加工品、お茶なども販売している。

●(農)味彩おおやま前
☎ 8:00~9:00(6~9月の日曜)、9:00~10:00(10~11月の日曜)



② 音川ふれあい市

採れたての旬の野菜は人気が高い。果実や切り花のほか、地元加工組織の赤飯やモチ、音川名産の大カブ漬なども直売している。


●音川交流センター前
☎ 11:30~16:00(3~12月の土・日曜)



⑦ 音杉農産物直売組合

豊富な山菜や夏・秋野菜、花、加工品などを豊富に販売。地元上市のひとびとから親しまれている直売所。

●上市ショッピングセンターカミールアーケード前
☎ 9:00~11:00(6~11月の木・土曜、第3日曜は17:00まで)



③ みのり館

新鮮採れたて野菜や大沢野特産イチジク、ラッキョウをはじめ、季節の切り花や手作りの農産加工品など品揃えが豊富。

●JA あおほ大沢野営農経済センター隣
☎ 9:00~18:00(水曜休)



⑧ JA アルプス農産物直売所

立山町産の野菜や花、果物、コメ、米粉パン、季節の野菜を加工した漬物等を販売。地産地消と町産食材の情報を発信。

●JAアルプスタてやま支店隣
☎ 9:00~16:00(月~金曜、土曜は12:00まで)



④ 菜菜こられ市

野菜や山菜、地元食材を使用した焼きだての金時おこわや豆腐、豆乳プリンなどを販売。手打ちソバも味わえる。

●八尾黒瀬谷交流センター喜楽里館
☎ 9:00~12:00(4~7月の第3日曜、8~12月の第2日曜)



⑨ 滑川ひかる市

春の山菜、夏から秋にかけてのニラ、秋の里芋・リンゴが人気。コメや季節の野菜、リンゴジャム、シイタケなども販売している。

●西加積ふれあいセンター
☎ 8:00~10:00(4~12月の水・土曜)



※さらに詳しい情報は、富山農林振興センターホームページの直売所情報 (<http://www.pref.toyama.jp/branches/1631/huku/1673.html>) をご覧ください

生産工程管理で『より良い農業』

ギャップ GAP

の取組みが始まります

具体的なGAPの取組みの仕組み

『良い農業』のために何に取り組むか「計画」を立て、実際に「実践」した結果を「点検・評価」することによって、問題点や改善点を見つけ、次の作業を「見直し・改善」していきます。

作業のルールを決めてやろう



①計画 (Plan)

「良い農業」を行う、計画を考える

今年はどうな目標を立てようか?



昨年を振り返ってみましょう!!

④見直し・改善 (Action)

計画をより良く改善する

田んぼ付近のゴミを片付けよう



PDCA サイクル

作業を継続的に改善・向上

②実践 (Do)

計画に基づきやってみる

③点検・評価 (Check)

問題点や改善点を確認する



農薬保管庫に入れて鍵をかけなきゃ

農薬が出っぱなしだ!

GAPとは、良い農業を行うための仕組みです。

Good (良い) Agricultural (農業の) Practice (実践)

GAP (ギャップ)とは

良い農業には、「安全な農産物の生産」「環境の保全」「農業者の安全」の確保が欠かせません。しかし、農業生産活動には、多くの危険(リスク)が潜んでいます。GAPは、農業生産活動に潜むこれらのリスクを、生産工程を管理することで未然に防止して『より良い農業』にしていきます。

農業生産活動に潜むリスクの事例

- 不適正な農薬使用
- 微生物汚染
- 異物の混入

- 産業廃棄物の投棄
- 肥料成分の流出
- 土壌の浸食

- 農業機械による事故
- 作業中の転倒
- 熱中症

GAPでリスクをブロック

安全な農産物の生産

環境の保全

農業者の安全確保



世界で、日本で、広がる『GAP』の取組み

GAPの起源は、ヨーロッパのいくつかのスーパーマーケットチェーンと欧州小売業協会（ユーレップ：EUREP）が1997年に始めたユーレップGAPという制度です。現在では世界中で様々なGAPが普及しています。

日本でも、平成14年以降に普及が始まりました。国内の取組み産地は、平成19年7月の439産地から平成23年3月には2,194産地と約5倍になるなど、急速に取組みが拡大しています。

日本のGAP導入産地数の推移



全国で初めて条例が制定

富山県では、平成22年12月、全国で初めてGAPを推進する条例である「富山県適正農業規範に基づく農業推進条例」を制定しました。さらに、平成23年12月には、このGAPに取り組み上での道しるべとなる「富山県適正農業規範（＝とやまGAP規範）」を策定しました。

今年4月からは、本県の農業者にはこの規範に基づく農業生産活動の実践に取り組んでいただくこととなっています。

未来につながる富山県の農業

とやまGAP規範をより所として継続的に取組みを行うことで、『より良い農業』が実践されるとともに、農業経営全体の無駄が排除されるなど経営のレベルアップや安定化が図られます。また、取組みが記録として残るため、消費者の方々への情報提供もやすくなります。

この取組みによって、富山県の農業が持続的に発展し、県民の皆さんに安全な農産物と良い環境を提供することができます。

富山県適正農業規範

～とやまGAP規範～



平成23年12月

富山県

とやまGAP規範は県HPよりご覧いただけます。まずはクリック!!

とやまGAP規範 [検索](#)

第1回「とやまの農山村写真展」受賞作品

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農村風景を、後世に守り伝えるための啓発活動の一環として開催しています。

応募総数 227 作品から、富山県知事賞として最優秀賞、優秀賞を表彰しましたので紹介します。

作品をご覧いただいた方々が、富山県の魅力を再発見する良いきっかけになるものと思っております。



最優秀賞



一般部門 黄昏の富山湾を望む (滑川市東福寺間) 水野敬雄



ジュニア部門 カカシ親子 (富山市山田) 上野 眞

優秀賞



一般部門 晩秋の水田 (富山市山田今山田) 菅波 繁



一般部門 雨の日の田植え (南砺市五箇山) 根芝一夫



ジュニア部門 おうちどこ (南砺市開樂寺) 細川 励

棚田賞

一般部門 杉山邦雄
松永正昭
ジュニア部門 中井 棕

特別賞

一般部門 山崎 勝 藤丸正義 林 京子
塩谷浩一 高畑 訓 浅野陽子
ジュニア部門 坂本千紗 竹本尚也 白江啓暁
山崎浩太郎 笹山翔平 永井幸奈

※受賞者のご氏名は応募順で掲載しております。
※「とやま棚田ネットワーク」のホームページにおいても、受賞作品をご覧いただけます。(http://www.taff.or.jp/tanada/tanada.htm)
また、第2回「とやまの農山村写真展」作品募集についても、お知らせしておりますので、ご応募ください。

とやま帰農塾 2012 参加者募集!

循環型むら体験道場

富山の農山村は資源の宝庫です。自然と歴史、農業と食文化を学びあい体験しませんか?

5月24日(木)～26日(土)	黒部塾	清流の黒部 命を継ぐ水と食文化探訪
6月 8日(金)～10日(日)	五箇山塾	森のめぐみ、世界遺産の知恵
6月15日(金)～17日(日)	びるだん塾	森の共国 自然人になりきろう
7月13日(金)～15日(日)	八代塾夏講座	万葉の歴史に色づく海と里の街
7月27日(金)～29日(日)	山田村塾	とやまのダーチャ体験

※9月から、5講座を順次開講する予定です。

各塾2泊3日の講座、定員10名程度、参加費13,000円

申 込：交流地域活性化センター (NPO法人グリーンツーリズムとやま) TEL・FAX 076-482-3161 http://gt-toyama.net
問合せ：富山県農林水産部農村振興課 TEL 076-444-9011

「2011年度とやま帰農塾」の取り組み

※2012年度も同じところで10講座を開講します

水見市 八代塾春講座・冬講座



朝日町 びるだん塾、大家塾



黒部市 黒部塾



魚津市 松倉塾



南砺市 五箇山塾、井波塾



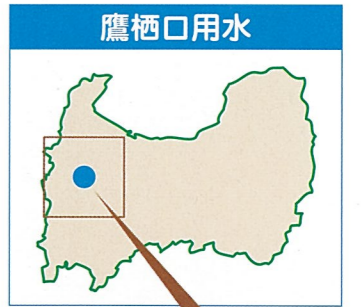
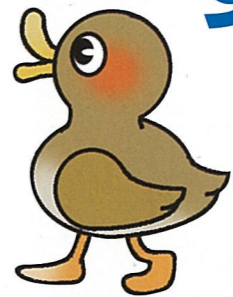
富山市 山田村塾、大長谷塾



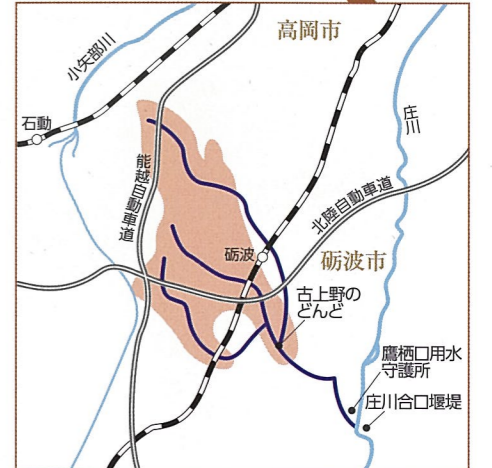


カモ親子の農村日記
ふるさとを創る土地改良施設を水辺から眺めてみました

鷹栖口用水 美しい散居を潤す 三百三十年の歴史



鷹栖口用水受益地域



散居村を流れる鷹栖口用水

鷹栖口用水は、砺波市庄川町金屋付近を頂とする砺波平野扇状地の中央部に位置し、約1,000haの耕地を潤しています。また、この農業地帯には「カイニヨ」とよばれる屋敷林に囲まれた家々が点在する「散居村」の美しい農村景観が広がっています。

一級河川庄川に設置された「庄川合口堰堤」から取水しているこの用水は、約37kmの水路を巡り、かんがい利用され、その排水は小矢部川に流れ込んでいます。また、1年を通して通水されているこの用水は、防火、消融雪などの生活用水としても活用され、地域住民共有の大切な資産となっています。

営々と守り続けられる用水

『金屋本江村長左衛門覚帳』によると、この地域の水不足を解消するため、明暦2年(1656)鷹栖口用水の掘削が開始され、延宝7年・徳川4代将軍家綱の時代に完成しました。

用水の完成後は取水堰の設置や補強工事、改修工事などが行われてきました。が、築造後長い年月が経過したことから施設の老朽化・脆弱化が目立ってきました。また近年は、都市化の進展に加えて、局地的なゲリラ豪雨や台風により河川・用排水路の増水が頻発しています。

これらの要因が重なって排水の流出形態が変化した結果、大雨のたびに水



全国的にも稀な浸透型洪水調整池 (砺波市神島地内)



農村景観を彩る桜並木 (砺波市苗加地内)

古上野のどんど



古上野のどんど (砺波市庄川町古上野地内)

鷹栖口用水を掘削する際、下流の高い所へ用水を引くため、古上野に丸太を組んで堰をつくりました。この堰から落ちる水の音が「どんどんど」と聞こえることから、この分水工は「古上野のどんど」として親しまれるようになりました。

「全国疏水百選」に認定

鷹栖口用水は、これからもこうした地域の特色を活かした知恵や、住民の努力で守り続けられていきます。

平成18年2月、鷹栖口用水は「全国疏水百選」に認定されました。これは、国土を守り、美しい田園を形作る農業用水(疏水)を次代に継承していくために、地域住民が一体となって保全管理してい

次代へ引き継ぐ貴重な水資源

数百年にわたって営々と農業用水路が築かれてきた結果、砺波平野ではどこでも水を得ることができるようになりました。

地球規模で「水問題」が深刻化している今日、貴重な水資源としての農業用水の価値を再認識し、散居村の景観とともに次代に引き継いでいくことが求められています。

土地改良広辞苑

- ・庄川合口堰堤 (しょうがわいこうぐちえんてい)
砺波平野を流れる庄川に点在していた用水取水堰を集約したかんがい・発電用の堰堤で、昭和14年完成。平成16年に国の登録有形文化財として登録されている。
- ・灌漑 (かんがい)
農作物を育てるために必要な水を、水路などを引くことによって外部から供給すること。
- ・冠水 (かんすい)
洪水などによって、田畑や作物が水をかぶること。
- ・浸透型洪水調整池 (しんとうがたこうすいちようせいち)
従来の一時貯留型の調整池ではなく入り込んだ水が地下へと浸透していくもの。これにより、調整池を小さくおさえることができる。

鷹栖口用水守護所

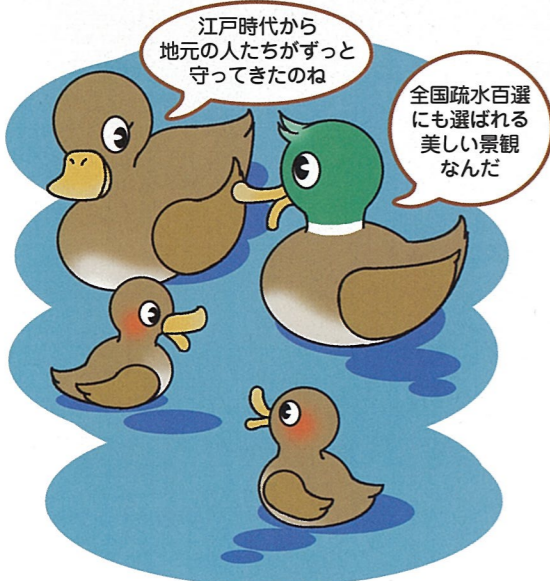


鷹栖口用水守護所 (砺波市上中野地内)

かつて、庄川流域の地域は、この地に鎮座する雄神社にちなんで「雄神の庄」と呼ばれていた。庄川は、「雄神の庄の川」と呼ばれており、それが「庄川」という呼称に変わっていった。鷹栖口用水守護所は、洪水や水不足に苦しんでいた村人たちを救うため、河の神である雄神や水利を司る神々への祈願と感謝をこめて、明治15年に建立された。昭和47年9月16日に再建されている。祭礼日は毎年4月14日。



昔ながらの石積護岸が再生された出町六ヶ用水路脇の「しじみの里公園」で水とふれあう子どもたち (砺波市深江地内)



東日本大震災の災害復旧支援について（福島県派遣者からの報告）

平成 23 年 3 月 11 日は、東北地方の太平洋側で発生した巨大地震により、建物の倒壊やライフラインの断絶、さらには大津波の襲来といった多元的な災害が起き、広範囲にわたって多くの尊い人命と財産がわずかな時間で失われるといった歴史的な 1 日となってしまいました。

また、福島第一原子力発電所の事故のみを見ても、チェルノブイリ級の災害だと思います。周辺への放射性物質の拡散は、健康被害の懸念や農業・水産業・畜産業への被害など、計り知れない影響を今でも及ぼしています。

私は富山県の農業土木職員ですが、災害に関しては平成 20 年に発生した洪水による南砺災害での復旧支援を経験しただけでした。しかし、東北での余りの惨状をテレビなどで知り、かつてない災害が発生したことを痛感しました。私にも何かできることがあるのではないかと考え、10 月から 2 週間と短い期間ですが福島県南相馬市にある相双農林事務所の農地災害復旧班へ業務支援に行くこととなりました。

現地へ行って知ったのですが、福島県のいわゆる浜通りの農地は、もともと地形勾配が緩く、標高も低いために排水が悪い条件にあります。このため、海側に堤防と大きな排水機場を設置することで、乾田化が凶られ営農が保たれてきた地域と言えます。今回の震災では、地震による地盤の変動で最大 50cm 沈下したことや、大津波により堤防が決壊したほか、

多くの排水機場が機能喪失したことにより、営農の基盤そのものが失われました。また、大津波は肥沃な耕土を押し流し、農家の命を奪い、農地に大量のゴミや塩分を残しました。私が支

援に行った 10 月当時でも排水機場が復旧していない地域では、農地に海水がたまっていました。

私が現地で担当した業務は、モデル査定や小規模な被災施設の資料作りでした。モデル査定とは、相双農林事務所の管内だけでも約 3,000ha ある復旧農地面積で個々に被害額を確定していくと膨大な時間と労力が費やされるため、地域ごとの代表的な被災農地をモデルに標準的な被害単価を作成し、被害額を算出しようというものです。また、被災施設の資料作りではポンプ場や農道橋など合計 101 箇所を確認し、同じ班の福島県、北海道、長崎県の方々と現場で共に汗をかきました。

正直、南相馬市へ行く前は原発事故のこともあって不安がありましたが、派遣期間中携帯していた線量計では、問題のない数値でしたし、現地の方々も皆さん普通に生活されていたので安心しました。



携帯した線量計（写真は 0.28 μSv/h）

これから、復旧事業が本格化していくと思われますが、農業の生産基盤がどれだけ元に戻っても、農家がいなければ農業はできません。そのための人材確保・育成支援に国の予算が計上されているようですが、地域農業が復旧するためには、長い時間が必要だと考えます。現場を測量している際に、10 名おられた農家のうち 7 名が大津波で犠牲となった地域もあると聞きました。震災の爪痕は深く、地域が立ち上がるためには、まだまだ多くの支援が必要だと思います。富山県でも、私が派遣から戻った後、12 月末まで交代で 10 名の職員が復旧支援に携って来ました。今後、復旧工事の実施に伴い、全国から多くの技術者の支援が必要になると思います。3 年後の復旧を目指して、支援にあたる職員の方々には頑張っておられます。どうか体に気をつけて、1 日も早い復旧を願っています。

富山県農林水産部農村整備課 浦田秀樹



津波で耕土が流失し塩類が堆積した農地

表紙の写真

氷見市余川
(有)ファームこばやし
パン工房「粒々」店長
おもて
表 (旧姓 川岸) 由佳さん (27歳)



中山間地域にある田んぼの中の一軒家で、実家の両親が作るコシヒカリの米粉を使って、もちりとした優しい味わいのパンを焼く表さん。

両親は、15 年前に米や大豆の生産を中心とする農業生産法人「(有)ファームこばやし」を立ち上げ、加工・販売部門も含めた経営を開始した。

「両親が作るおいしい米を使って何かやりたい」と思うようになった表さんは、福井での米粉パンづくりの修行などを経て、平成 17 年にパン工房「粒々(つぶつぶ)」をオープンさせた。店名には「ファームこばやし」の一員として、米の一粒一粒を大事にしたいという思いが込められているそうだ。



□本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません□本誌の内容が富山県ホームページでもご覧になれます <http://www.pref.toyama.jp/>

ふるさと夢とやま

検索

第 29 号 平成 24 年 3 月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに富山県棚田地域水と土保全基金で発行されています。

発行



富山県 富山県農林水産部農村振興課

〒930-8501 富山市新総曲輪 1 番 7 号

TEL 076-444-3381 FAX 076-444-4427

富山県農村環境創造基金 <http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/noukan/index.html>

とやま棚田ネットワーク <http://www.taff.or.jp/tanada/tanada.htm>

編集



社団法人富山県農林水産公社

〒930-0096 富山市舟橋北町 4 番 19 号

TEL 076-441-7398 FAX 076-444-3851

<http://www.taff.or.jp/>

この冊子は再生紙を使用しています。